

解答

- ① 永住 ② 景勝 ③ 肉声 ④ 器官 ⑤ 方便
⑥ 裁量 ⑦ 生計 ⑧ おこな ⑨ ふんべつ ⑩ しゅっしょく

二

問一 ア

問二 ウ

問三 雪子が喜んでくれたことがうれしく、これからお菓子を持ってくるから遠慮なく食べてほしいという気持ち。
(五十文字)

問四 エ

問五 A ウ B ア

問六 お菓子がなく、まずいおやつを食べる辛さがよくわかり、雪子がかわいそいで、甘くておいしいお菓子を雪子に
いっぱい味わわせてあげたいと思ったから。(七十文字)

問七 ウ

問八 ア

三

問一 ウ

問二 ② エ ⑤ イ

問三 「正直者でありなさい。さもないと、ひどい目に遭いますよ」(二十八文字)

問四 ア

問五 ウ

問六 ア

問七 犬が木に、木が白に、白が灰に次々と再生した(二十一字)

問八 イ

解説

⑨ ①「分別」は「ふんべつ」とも「ぶんべつ」とも読みます。「ふんべつ」は「道理をわきまえること。物事の善悪や損得をよく考えること。」という意味です。「ぶんべつ」と読むと「種類によって区別すること。」といった意味になります。

二

問三

——③の7行前「そのありがとを聞いたとたん、くもつともつとお菓子を渡したい。」に着目すると、雪子からお礼を言われた理沙の喜びを読みとることができます。また、「うちなんか余るほどあるもん。」と「ちよつと大げさ」に言っているのは、雪子に遠慮せずにお菓子をもらってほしいという気持ちの表れだと考えられます。

問六

理沙は雪子からもらった戦時中のおやつを口にしたものの、あまりにものまずさに、すぐに全部吐き出してしま
います。——⑤の3行前「昭和十九年の雪子は、くどんなにつらいことだろう。」より、「子どもなんてお菓子を食
べるもん」のはずなのに、おいしいお菓子が食べられないつらさが身にしみてわかり、雪子に同情したのです。

三

問七

抜き出しの問題です。「白」を「白」と書き誤らないよう注意しましょう。